

一橋大学入試対策問題集について

「一橋入試は問題が特殊で対策が難しい……なのにきちんとした対策問題集もないし、予想問題も少ない……」そんな悩みを抱える一橋志望者は多いはずです。現に私たちもそういった悩みを抱えていました。もう自分たちと同じように悩んで欲しくない、そんな気持ちから生まれたのがこの「一橋大学入試対策問題集」です。受験を突破した一橋大生ならではの解説、受験勉強を経て蓄積したノウハウ、傾向に即したオリジナル問題、本番を意識した模擬試験、合格者の成績データやおすすめ参考書など、一橋志望者が欲しいものは全て盛り込んだつもりです。この問題集を一橋合格のためのバイブルとして使い倒してください。「この問題集のおかげで合格しました！」そんな喜ばしい声を待っています。受験勉強頑張ってください。では、一橋大学のキャンパスでお会いしましょう。

2017年10月
一橋大学入試研究会一同

テキストの構成

「一橋」の「英作文」に特化した問題集が今まであっただろうか。いや、ない。(あったらごめんなさい)。すでに対策を始めており、予備校などで情報を得ている人も多いと思うが、一橋大学の英作文は、毎年3つのテーマからひとつを選び、100字～150字程度の論述を行うという形式をとっている。記憶に新しいかもしれないが、2016年度入試ではテーマが三つ全て絵であり、それについて論述するという残酷なことをやり始めた。さらに2017年度入試では手紙型という新傾向が出現し、度肝を抜かれた受験生は多かっただろう。故に当然ながら賛否型だけでなく、絵や手紙型に対する論述能力も必要となってくる。加えて、一橋の英作文を採点しているのは外国人という噂もある。本学には大量の外国人教師がいるのでありえない話ではない。外国人が採点するのであれば文法、構文のみならず内容も得点源になることはいうまでもない。

本書ではそうした一橋の最新の傾向にあわせつつ、一橋の英作文ならではの悩み即ち

- ・ 三つのテーマのうちどれを選ぶか
- ・ 100～130字又は120～150字は英作文として少なめと言われているが普通が多いのではないか
- ・ そもそも何書けばいいのかわからない

などなどの現実的な問題に特化したうえで、表現の方法、内容の充実等を学べるようにしてある。豊富な問題量を「受験生」として乗り越えた、読者に最も近く寄り添える立場として記した全く独自の対策本となることを願ってやまない。

一橋英作文の基本事項

一橋の英作文は本番では25分～30分をめどに完成させたい。英作文で一番重要であるのは、採点官の立場になって書くということ。採点官はあなたが一橋大学にふさわしい人間としてどのような経験を今までしてきたか、あるいはどのような背景知識を持っているのかなど全く知りませんし、たかが150字の英作文でそれを読み取ろうという意思も別段持ってないのだから、短時間で何十枚、何百枚もの答案を採点する採点官が一番良いと思う答案とは、「文法ミスが見当たらず、不自然な言い回しも無く、一読で論理の流れが理解でき腑に落ちる答案」である。無理に奇をてらう必要性はまったくないが、独りよがりや飛躍を避け、流れのある自然な文章を書くことは大切である。このことをよく肝に銘じて英作文を作り上げてほしい。

初めて書く人に一応説明をしておく、150字位までの英作文なら改行、段落替えは一般的に必要ななく、先頭だけ一文字あけてつなげる形で書こう。更にポイントを付け足しておく、一文は長すぎず短すぎない語数、15字くらいで書くのが好ましい。文章が短すぎると文同士のつながりに同じ単語を多用することになったり、情報が少なすぎたりするために幼稚にみられてしまう。内容に関しては決して独りよがりにならないことを心掛けてほしい。特に自分の意見を主張するタイプの問題では重要な意識で、どんなに根拠や補足が主観的（実体験や具体例）であったとしても、それによって主張しようとする意見が客観的に正しく筋が通っていることが大前提である。

では、筋が通っているとはどういう文章をいうのだろうか。それは、自分が思いつくままに書きなぐったような文章ではなく、英作文全体が一つの流れをもっているということだ。具体的に言うと、序盤でやや抽象的な主張を行い、中盤で具体的に説明を加えて主張を強化、そして最後に具体例を経て強化された結論をつなげることだ。今私が書いたように、「それは自分が思いつくままに書きなぐった……大前提である。」→「具体的に言うと……」この流れこそが日本語ではあるがまさに説得力のある文書の作り方である（調子に乗りましたごめんなさい）。

さらに忘れてはいけないのがイラスト型の対策である。近年の一橋大学の流行りであるが2016年は3つともイラストにしてきたので今年は別の形になる可能性は高いが、イラスト型をしっかりと対策しておくことは肝要だ。このイラスト型は今述べた主張展開の流れとは全くことなるが、筋を通すことに関しては同じことである。イラスト型で筋を通すのはどういうことかということ、「国語と一緒に想像でもいいので起承転結がついていること」もしくは「イラストから誰もが読み取れる客観的な情報が陳列されている」ということだ。私は前者をお勧めしたい。つまりイラストから小説のようにストーリーを創り出すのだ。この手法に関してはのちに詳しく説明するとして、総合的な英作力を身に付けてほしい。

型別対策

論述型	4
賛否型	6
イラスト	8

過去問

論述型	11
賛否型	13
イラスト型	15

実戦問題

論述型	17
賛否型	19
イラスト型	21

最新傾向

手紙型	24
-----	----

型別対策



賛否型

かつてよく出されていた賛成か反対どちらかの立場で答える問題の、簡単な例題を用意した。まずはこの型を解く基礎の基礎を理解する。どちらの立場をとるにせよ、言いたいことをはっきりと言えていることが内容点につながる。

問 Write 60 to 80 words about the topic below. Indicate the number of words you have written at the end of the composition.

- ・ A fried egg should be seasoned with sauce.

※ season 味付けをする

解答例

I disagree with this idea. A fried egg should be seasoned with salt and pepper. It is because sauce has very strong flavor and it may break the original taste of egg itself. However, salt and pepper simply bring out the flavor of egg, and it goes well with bread. Putting a fried egg on bread with salt and pepper is the best breakfast for me. (66words)

解答概要

私はこの意見には反対だ。目玉焼きは塩コショウで味付けされるべきである。なぜならソースはとても強い味をもっており、それがたまご本来の味を壊してしまうと思うからだ。しかしながら塩コショウは純粋にたまごの味を引き立ててくれるし、パンにも合う。塩コショウをかけた目玉焼きをパンにのせる、これこそが私にとっての最善の朝食だ。

解説

まず賛否型では賛成か反対の立場を明確に決め、それに基づいて一貫した論理展開を行うことが肝要だ。その立場を決めるうえで簡単なブレインストーミングをするといい。この立場をとればこんなことが書けるだろうといった具合に。この点は問題数を解きつつ自分なりの連想力を培ってほしい。さて、この問題においてはまず反対の立場をとる方が書きやすい。なぜならソースの代替案になるものを自由に連想してそれについて語るができるからだ。嘘をついてでもたくさんの内容を連想できる立場をとれば、字数が気にならないどころか文章をしっかりと推敲して作りやすくなる。もっと字数が増えたなら譲歩を加えていだけでいい。

この解答の流れは 自分の意見→理由→結論となっている。結論は書かないという意見もあるが、それは同じことの繰り返しになってしまう場合においては確かだが、結論でいままでの意見を総体して一歩踏み込んだ文章を書けるなら結論を置くのは有効である。

また、First of all,……. Second, …… Third, …… という列挙をする人も多いが、ある論拠とある論拠(例えば first と third)の内容が似通って冗長になったり、はたまた自分の意見を述べるうえで矛盾点がでたりしてくっつけただけの支離滅裂な文章になることが多いため、120字前後の英作文なら使わない方がスマートで読みやすい文章が書ける。その場合の論理展開は【自分の意見→理由→理由を補足する体験談 or 説明→(結論)】と持っていくのが書きやすい。この解答で理由の補足を行うなら、「ある科学的な研究のもとで卵黄のうまみを引き出すのは塩味が最も適しており、酸味や苦みとは合わないというデータが出ている」や「おばあちゃんの家に行くといつも塩コショウで味付けした目玉焼きを食べさせてくれた、それは青春と思い出の味だ」など適当(?)に書けばいい。字数が足りないのであれば理由と補足をもう一つ増やせば相当量になる。そのつなぎは In addition, などを使えば事足りる。